

2010年12月21日(火)

再利用アルミ エネルギーに



広がれ エコ融雪マット

北陸三県の自治体や大学、企業などでつくる北陸グリーンエネルギー研究会は二十日、飲み物の紙パックなどからリサイクルしたアルミニウムを材料にして発生させたエネルギーを使う融雪マットの実証実験を、高岡市二塚の済生会高岡病院で公開した。(佐久間博康)

アルミと水酸化ナトリウムを反応させ、発生した水素エネルギーを燃料電池に送って電力を発生させる電源装置を発生させる電源装置

産官学の研究会 高岡で実験

「安全性高め実用化を」

置を使ったシステム。長は「北陸地方では地ごみとして捨てられる下水源を使った融雪法紙パックの内側に貼ら一般的だが、水も限られたアルミなどを高純度で抽出する装置が別トは地球環境にも人にも優しい取り組みだ。実用化されれば導入したい」と話した。

実験では、着脱ができる電力百ワットの電源装置を使用済み紙パックのアルミを熱源に実施された融雪マットの実験。高岡市二塚で

置から融雪マットに電気を供給。用意した雪を、三〜五度程度に保温したマット(長さ九十センチ、幅二十五センチ、厚さ五センチ)の上に載せると、溶けていった。

研究会アルミ水素部会長の川口清司・富山大学院理工学研究部

教授は「安全性などの課題を克服し、将来の実用化を目指したい」と意気込みを語った。同病院の北川和久院

(北陸中)